

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 30 年 10 月 2 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3472700297		
法人名	医療法人みやうち		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	廿日市市みやうち字佐原田4207番地4 (電話) 0829-38-0793		
自己評価作成日	平成30年9月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3472700297-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成30年10月1日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

高齢化と介護の重度化により、ご本人の意思で自由に楽しめる事が少なくなっている中、理念の「笑顔で楽しく安心できる場所」を目標にケアを行っております。高齢化、重度化により医療のニーズも高くなり看護師を配置して母体の廿日市野村病院と連携し、グループホームで医療対応し少しでも長く生活していただけるよう努力しております。ご家族様との関係を強くし、連携をとり運営推進会議を通してグループホームでの生活の様子や事故情報や季節の注意喚起の発信、利用者様の声やご家族様、関係者様の声を聞き、協力して利用者様を支えて行けるよう努力し続けます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

廿日市の郊外で落ち着いた環境に恵まれ、併設病院や複数の系列事業所に囲まれコミュニティとして安心できるバックアップ体制が整う中、毎日笑いのある会話や歌を歌うこと、四季折々の食事や行事を楽しむことに努め、利用者のニーズに沿った穏やかな暮らしを育てている。母体が医療法人であることから、看護師の配置で更に看護面でのサポート強化に努め、最期までその人らしくすごせる健全なシステムづくりに取り組んでいる。認知症カフェの開催や、東京オリンピック開催まで毎年メキシコ選手たちを受け入れるなど、国際交流を視野に入れた関係性の構築に励み、地域ぐるみでの防災・減災活動に努めつつ、長年培った経験やノウハウを活かしチームケアの向上に尽力している事業所である。

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝朝礼で唱和・共有し、1日1つでも職員一人ひとりができる事を心掛け日々取り組んでいる。	「笑顔で楽しく安心できる場所」の理念に則り、具体的な方針として「笑いのある会話・一緒に歌を歌う・四季折々の食事や行事を楽しむ」を毎朝礼時に唱和し職員間で共有している。半年ごとに個人目標を見直すなど、理念に立ち返りつつ意識統一を図り日々のケアに活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	法人で開催する健康フェアにおいて地域の方との交流や地域のボランティアの方の訪問で交流を図っている。また地域の美容院を利用し、美容院の方の協力も得て、美容院の方に工夫して頂きなじみの関係を作っている。このH29.10月より法人で認知症カフェを準備しており、関わりを持って参加していく。	法人開催イベントの盛大な健康フェアをはじめ、夏まつりなど豊富な年中行事を催し地域住民や家族が気軽に参加できる場所づくりに努めている。クラシック音楽会や劇団・歌謡ショーなど多彩なボランティア来訪により、馴染みの関係性を大切にしたい取り組みを重ねている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域にはあまり貢献できていないが、利用者家族様の集まりにおいて、認知症についての質問を受ける。見学に来られる方の相談を受けることがある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	市役所や地域包括から参加していただき、ご家族様への情報提供等を行っていただく。専門職による勉強会を行う、ヒヤリハットの報告や日々の活動をスライドショーで視聴していただく等を行い事業所の現状を報告している。	当会議には、家族・行政関係者ほか多方面からの参加を得て近況報告及び意見交換がなされ、スライドショーや専門分野の講師による勉強会など毎回テーマを変えて取り組んでいる。会議後に家族会を催すなど、家族参加も多くお互いの意識向上にも活かした機会となっている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議へ参加して頂き、ご家族やご本人の声を聞いて頂いている。日本認知症グループホーム協会の職員研修について連携を図り話し合いを行う。	運営推進会議への参加はもとより、普段から相談・手続きなどで連携している。認知症カフェ開催やオレンジプランに関する研修・集会など交流の輪をひろめている。東京オリンピック開催までメキシコの選手を毎年受け入れるなど、積極的に関わり協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関・裏口・自室は普通の家庭の施錠であり、ご自分でも開ける事ができ、出られる事があっても無理に止めず、付き添っている。ベット上で自ら動かれ危険な方には、マット下にセンサーコール置き、動きを察知し見守りをしている。	法人内外の研修及びマニュアルを基に、身体拘束廃止や適正化に向けた意識向上の強化を図り、運営推進会議時などで見直しを行っている。センサーコール使用や必要に応じた施錠はあるものの、なるべく制約を加えない見守りによるケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部・内部研修へ参加し、法人内ではサービス向上委員会では他部署の職員の声を受け止め、身体的・精神的な虐待のないよう職員間に伝え、努めに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度を利用されている入居者様を通じて、勉強をさせていただいている。ご家族様と後見人との間を取り持ち、スムーズな関係を持っていただくよう援助を行う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ホーム長・相談員より十分な説明を行う事としている。また、改定等についても運営推進会議や家族会の際、その都度説明・質問を受け、確認を取っている。ご家族様面会時には疑問や質問がないか確認の声かけを行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱の設置や、法人のサービス向上委員会よりアンケートを実施。また運営推進会議で意見や要望を活かせる場を設け、それらをもとに話し合い反映させている。	家族会・面会時などで意見や要望を伺う他、サービス向上委員会のアンケート内容を集約検討し、クオリティーアップに努めている。きめ細やかな対応や、歌やゲームを取り入れた共に楽しめる配慮などで家族との信頼関係を築き、運営の改善や入退院時などのケアの向上に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々のカンファレンスや職員会議で管理者と職員の話し合える機会を設けている。また、行事・日常業務の検討を行い運営に反映している。2ヶ月に1回、法人内のグループホーム管理者の会議において各ホームの情報交換を行っている。	主に職員会議で話し合い、毎月の勉強会でも業務改善やマニュアルの見直し・ケアの取り組み・行事内容について意見交換し、より良い運営に活かされている。日常生活の中で気づき合える機会を持ち、系列事業所との会議では活発に情報交換するなど、互いの視野をひろめるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	給与体制は法人の人事考課制度によって決められており、個人の努力や実績が給与に反映されている。個人の能力向上も目標を共有しながらレベルアップすることにより、法人全体のレベルアップを目指している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内では院内研修が定期的に行われている。ホーム内でも不定期ではあるがカンファレンスの時間を使って勉強会をおこなう。外部の研修に参加した時はカンファレンスなどで報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	親睦会を通して他部署の職員との交流ができています。2ヶ月に1回行われている法人内の管理者会議を通して他のグループホームとの情報交換も行っている。昨年は日本認知症グループホーム協会が企画した相互研修に参加し職員が当法人外のホームで3日間の実習を行った。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時に、本人や家族より聞き取りを行い、意向が反映されるよう入居時暫定プラン作成経て説明同意をいただいている。暫定プランは1ヶ月更新であり、暫定プラン中に要望や不安状態を把握し本人に合わせて随時変更している。		

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前にホーム長・相談員と共に在宅や利用されている施設への訪問、又は現在の身体状況や生活面で困っている事や不安な事などを聞きながら、不安や認知症への理解についてお話をさせていただく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前の情報収集にて、法人内の専門職にアドバイスを求め、対応を決めている。必要であれば他の医療サービス(歯科・マッサージ等)を検討し提供を考える。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	家事ができる方に無理のない所で参加していただく。心身に重度化が進んでおり、作業が難しい現状の中、歌や記憶ゲームでの昔話や、料理の方法を教えて頂いたり、生活面で会話により色々な会話で支え合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や電話等で話す場合に、御家族様の気持ちをお聞きしながら、ご本人様のケア方針を決めている。担当者会議を開催し率直な意見を頂く事もある。3ヶ月毎にケアプラン更新時にも意見をうかがいプランに反映させている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの関係を入居して切れないよう、継続できるよう働きかける。近所の方や親類以外に担当されていたケアマネジャーや、支援していた職員の面会がある。	元利用者の家族が折り紙や、しの笛のボランティアで定期的に訪れたり、チェロ・アコーディオン演奏、劇団や舞踊などのボランティアとのふれあいを通じて笑い声や歌声のあふれる関係づくりに努めている。面会などで訪れやすい雰囲気作りや環境の整備にも配慮している。	

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	1F玄関や2FのEV前に椅子を置きコーナーでお茶をしていただく。一緒に歌を歌われ、会話を増やす等のきっかけを作っている。お互いに波長が合わない入居者様同士には職員が間を取り持つように努力している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去された方もご家族様が訪問されたり、入院先に面会に行っている。ご本人様が亡くなられたが今だにボランティアに来られるご家族様もおられる。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様が安心して生活できるよう何がしたいか、何が出来るか話あっている。日頃の会話から嗜好を聞き出し好きな事ができるよう援助する。重度で困難な場合は以前の生活暦より検討し援助している。	生活サイクルの中のさりげない会話やタクティールタッチなどで、各々の思い・希望を汲み取り、理解した内容を生活行動記録に記し職員間で共有している。それらを職員二人体制でアセスメント表作成につなげ、個別ケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人や家族の情報を聞き取り、フェイスシート等で故郷の話・家族の話をお聞きする等で把握するようにしている。普段の会話で過去の話をついケアに活かせる事があれば情報を残して援助に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の状態はケアプランに沿って生活行動記録に記入し、職員全員が見れるようになってきている。またカンファレンスノートにも要点を記入し、見れるようになってきている。		

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ケアプランは現実達成できる事を目標としご本人様が出来る事を援助している。目標に対してご家族様の意向も取り入れる。H30.7より生活機能向上の加算算定を取り入れ、理学療法士にも専門的意見をいただく。重度化している入居者様には、身体機能を維持できるような計画を取り入れている。</p>	<p>職員が日々知り得た情報を基に、家族・医療関係者他と担当者会議で協議し、ニーズに沿った介護計画を作成している。本人のできる事・趣味や生きがい他を考慮し、音読を組み込むなど生活機能向上や意欲につながるケアプランとなるよう努めている。職員二人係りのモニタリングで三か月毎に見直しを行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の様子・工夫など生活行動を記録に残している。ケアプランは見直しの際に記録を活用してプラン作成にあたっている。病気や入院で状態の変化があれば連絡ノートを活用し情報共有をはかる。計画の見直しを行い困難時はカンファレンスや担当者会議を開催している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>病院敷地内には病院・老健・通所サービス等で各専門職のアドバイスを求め受けれる。医療ニーズが高まると訪問看護師との連携を行いH30.4月より看護師が配置された。看取りの際には病院の特浴で入浴を出来るようにしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>定期的にボランティアの来訪や併設の施設の利用等を取り入れている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>併設の野村病院が中心に支援をもらっており受診や往診を受けている。入居者様の体調の変化状態により、早め早めにご家族に連絡をし、時には主治医が説明し、状態により他院の紹介や、またはご家族様の希望があれば総合病院や専門院に紹介している。</p>	<p>ほぼ全ての利用者が法人ドクターを主治医とし定期的な内科の訪問診療があり、看護師の配置と共に手厚い医療のバックアップ体制で健康管理している。ケースワーカーや総合病院の地域連携室との連携もあり、急変時・緊急時対応が迅速に行われている。口腔ケア・服薬管理に努め、感染症予防対策にも取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	連携看護師または訪問看護師、病院外来を通してドクターとの連携が可能である。H30.4より看護師を配置しより連携がとれる。ホーム内での吸引や点滴にも対応している。臨時の受診や緊急の指示・入院などに対応が出来るよう支援を行う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	総合病院、母体病院に入院された際は、入院病棟看護師とケースワーカーに連絡を取り合い、詳細な相談や退院に向けての打ち合わせが可能である。また、総合病院の地域連携室との関係づくりも行なっており、入院中はスタッフが面会へ行くなど関係づくりを継続している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	主治医より終末期については説明があり家族に不安がないよう話し合いが持たれている。看取りのケアプラン作成時、説明時に家族の意向や入居者様ご本人の気持ちを汲み取れるような対応を検討している。主治医・連携看護師・訪問看護師・ホーム職員が連携を取り合っている。	終末期における方針など十分な説明のもと、重度化した場合その都度家族とよく話し合い、各々の意向やニーズに沿った支援に努めている。最期までその人らしく過ごせるようにチームケアの充実を図り、温かみのある寄り添う支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時対応マニュアルがあり、母体病院とすみやかに連携し対応できる様にルールが決まっている。また、急変が起こった後には常に職員間で情報共有を行い、今後に備えての対応に活かせるように考えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	月1回程度、火災発生時の避難訓練や土砂災害、地震災害時について入居者様と共に訓練を行っている。法人全体でも地域と災害協定を結び災害時の対応を考えている。	定期的に防災訓練を行うほか、様々な災害時に備えた自主訓練を取り入れ、防災備品・避難ルートの確認や、防災・減災対策への意識向上に取り組んでいる。法人として相互応援協力関係の構築を図り、地域ぐるみでの安全確保の強化に努めている。	

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	標語を作り毎朝朝礼で唱和し仕事のスタート時に笑顔で対応できるよう確認している。個室で過ごしたい時間がある方は個室で過ごせるようご家族様に協力していただいている。	利用者一人ひとりを尊重した声掛けや接遇に配慮し、トイレ介助時の声のトーンなど自尊心やプライバシーを損ねない意識付けに取り組んでいる。礼節を保ち個々のライフスタイルを大切にしたケアを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	選んでいただける、判断できる事は、入居者様ご本人にお任せしている。できない方は以前の嗜好や好みを活かして援助を行う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	高齢化、重度な入居者様が多いなか、入居者ご本人の残された力を使って、マイペースで過ごしていただけるよう配慮を行う。希望に沿えるよう必要時はケアプランに入れて、確実な支援を行うよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご希望があればホーム内で髪染めを行っている。起床時は髪をといていただき、着替えは選べる方には洋服を選んでいただいている。また、家族となじみの美容院や近隣の美容院に行かれたりしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者様の好きな食べ物を聞いてメニューに取り入れできるだけ手作りをしている。食前は口腔体操やテーブル拭きをしていただく。食事中は職員が話題を作り一緒に会話を楽しみながら食事をしている。食後はお膳拭きなど、一緒に片付けをしている。	個々の嗜好を考慮し、アレンジした献立や、旬の食材で季節感も味わえる手作りでの食事提供をしている。温かいものは温かいままでサービスし、職員との和やかな会話も大切な要素となっている。誕生日メニューやクリスマス・おせち料理など、スペシャルな味わいも楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事は入居者様個々に合わせて盛り付けし、個々に合わせた食べやすい形態で提供させていただいている。水分は1日1000ml以上を目標にこまめに配慮している。夜は巡室時や排泄介助後に行う体制を作っている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>嚥下の悪くなってこられている方はガーゼやスポンジブラシを使って口の中の乾燥に気をつけながら清潔に心掛けている。義歯の方は食後に声掛けを行う。義歯を失くされる事もしばしばあるのでチェック表を使って預かりをしている。H30.6より歯科の援助をいただき月1回、口腔ケアの指導がある。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄にいった時間は生活行動記録に記入し排泄の回数や量を把握している。トイレが分かりやすいよう表記している。また、誘導も必要時に行う。紙パンツ、紙オムツ、尿とりパットは2種類を準備している。なるべく紙パンツ類は使用しないよう努力している。</p>	<p>なるべくトイレでの排泄を促し、個々のパターンや時間を見計らいトイレ誘導している。生活行動記録に記しパッド交換・水分補給をこまめに行い、気持ちよく過ごせるように配慮している。オムツから布パンツへ移行した利用者もいて、日中の活動量を増やし筋力の維持にも心がけている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>便秘傾向のある入居者様には、医師に相談し排泄しやすいよう薬の調節を行ってもらう。高齢化、重度化で運動の働きかけは難しくなっている。食事前には体操を取り入れて出来る時は行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>重度化で入浴が難しくなっている入居者様もいらっしゃる。介護拒否が強い方もなるべく入浴できるよう職員が入れ替わり、時間を変えながら対応している。重度な方も難しいが2人でシャワー浴を行なっている。</p>	<p>各々の心身状態に合わせ柔軟な対応で支援している。リラックスや職員とのコミュニケーションの場としても大切な時間になるよう配慮している。柚子などの季節の香りを湯船に浮かべて気分を変える工夫や、二人介助での支援などで利用者の清潔・衛生面の保持に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	廊下のコーナーに椅子を配置し ている。リビング、タタミコーナ ー、ソファで休める。自室でも希 望があれば配慮する。入居者がど こでも過ごしても対応する。その 時その時に声掛けしている。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について 理解しており、服薬の支援と症状 の変化の確認に努めている。</p>	服薬は誤薬防止のため、本人の名 前・日付を声だし確認し、他職員 とともにダブルチェックを行い防 止に努めている。薬の用法・用量 もファイルし、すぐに確認でき るようにしてある。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生活 歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援を している。</p>	洗濯たたみ・皿洗い・お膳拭きと 自宅におられたときにされていた 事を無理のない範囲でお願いして いるが、現在はお膳拭きや豆のス ジ取りと座っての作業も少なくな っている。歌や季節ごとの行事を 楽しみ、季節を感じてもらって いる。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう支 援に努めている。また、普段は行 けないような場所でも、本人の希 望を把握し、家族や地域の人々と 協力しながら出かけられるよう に支援している。</p>	気候や天気の良い日には、近所 を散歩したり、花見や買い物等、 ドライブに行き楽しんで過ごして もらっている。季節季節で出かけ ている。個別に家族と外出される 事もある。重度化に伴い受診の 機会が増えている。	天気の良い日に散歩・買い物な どで気分転換に努めている。年間 行事としても花見・紅葉狩りなど のドライブを楽しみ、家族と共に 外食に出かけることもある。利用 者の手作り作品を展示した作品展 を観るため、法人アートギャラ リーへ出向くなど、職員と一緒に 楽しむ外出の機会を設けている。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひと りの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援して いる。</p>	お金が現在、預かりはしていない。 欲しい物を購入したい間は、ホー ムで立替をしている。お金は所持 すると無くなる可能性がある方が 多くトラブルを避ける。		

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	個人で携帯電話をお持ち込んでいる入居者がいらっしゃる。重度化に伴い電話できない事も多くなり援助している。年賀状や暑中見舞い等もホームから送る。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間には季節ごとに手作りのカレンダー（作品）をはって、日付や季節がわかりやすいよう工夫している。リビングには畳スペースがあり座って作業が可能である。室内の換気や温度・湿度計を設置している。必要時はエアコンも使用している。	利用者と共に作成した季節毎の手作り作品が飾られたリビングには、畳のスペースを設け中庭が見える造りで、ゆったりと寛げる憩いの場となっている。玄関先ではベンチに座ったり車イスでの日向ぼっこなど、それぞれに戸外でも楽しめるような工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビをみたり、歌をうたったりするなど本人のペースで自由に生活してもらっている。玄関前ベンチや2階E Vホールで日向ぼっこをされ、気分転換を楽しまれている方もいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室に家族との写真や手紙を部屋に飾っている。重度でリビングにあまり出れない入居様は自室で好きだった音楽を流している。リクライニングの車椅子を使って重度な入居様を自室以外で過ごしていただき皆さんの声をする場所にお連れする事もある。	居室には洗面台が設置され、口腔ケアや身仕度をする時などに活用でき、部屋全体的にすっきりとした清潔感がある。個々が過ごしやすいよう趣味の品や家族写真他に囲まれ、お気に入りの曲をBGMで流す工夫など、思い思いに寛げる落ち着いた雰囲気づくりへの配慮がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	床はバリアフリーで廊下と自室の段差はない。歩行器を使用してフロアを自力で歩かれている方には、歩行器を忘れて歩かれることもあるため、見守りや声かけを行っている。「トイレ」や「○○様」と表示し確認できるようにしている。		

V アウトカム項目() ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームひまわり

作成日 平成30年10月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	26	目標達成できるプラン作りと具体的な支援方法に関してチームワークで取り組む	立案したプランと援助方法を全員が行える。	ケアプランを見ながらの申し送り。記録確認。3ヶ月毎にチェックし早急に取り組む。	早急
2	35	災害時や避難時について2階からの避難方法について有効な方法を検討する。	重度な入居者様も避難できるよう、方法について実演練習する。	1ヶ月に1回の避難訓練時に検討し練習を行う。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。